

学校 教育 目標	たがいに思いやり 自ら考え たくましく生きる 川上の子 ～かがやく わたし かがやく みんな～ ○基礎基本を活用し、自分で考えて問題を解決しようとする子(知) ○自分を大事にし、相手を思いやる優しさをもった子(徳) ○体力づくりを通じ、心も体もたくましく生きる子(体) ○みんなのために自分ができることは何かを考えて行動できる子(公) ○自分と相手の違いを知り、それぞれのよさを認められる子(開)								
	学校 概要	創立 131 周年	学校長	堀部 尚久	副校長	江目 典子	2 学期制	一般学級: 12	個別支援学級: 2
児童生徒数:		306 人		主な関係校: 秋葉中・秋葉小					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	秋葉中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <問題発見・解決能力> <コミュニケーション能力>	秋葉中学校 秋葉小学校 川上小学校	豊かななかかわりの中で、自他を認め合い、ともに高め合う子ども  「豊かななかかわり」とは、どのような場面で、どのように期待する姿であるのかを把握し、ブロックで取り組む活動の中にかかわりを重視した取組を設定する。 ・児童生徒が自分のよさを見つけ、互いに認め合い、ともに高め合うことができるような学習支援や生活指導につけて探り、9年間の学びや生活場面を想定し、「小中一貫カリキュラム」の中に明確に位置付け、教育活動を推進する。

中期 取組 目標	◎学校教育目標の具現化に向けて、子どもにとって魅力と活力にあふれた学校づくりを目指します。 ～子どもを教育する学校から、子どもが学び育つ学校へ～  ○誰もが安心・安全に過ごせる教育環境の維持・向上が図られ、誰もが居心地よく学びや生活を行える学校づくりを推進します。 ○自らの思いや願い、気づきや考えを伝え合ったり表現し合ったりする活動を通じ、自尊感情を高めながら、コミュニケーション能力を培います。 ○学校・家庭・地域の連携、協働により、「まち」の人との確かな繋がりがりや深いかかわりを通して学びの充実が図られ、豊かな心を育みます。 ○教職員が組織力を発揮し、指導・支援に臨める学校運営組織の構築や運用を図りながら、キャリアステージに則した教職員の力量を磨きます。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	カリキュラム・マネジメント 学びづくり	①学習指導要領の理念に基づき、各教科における課題解決的な学びづくりや単元開発を推進する。②教育実践を通して資質能力育成ベースによる教育活動計画の実効性を検証し、教育課程の改善を図る。③国語科の重点研究で身に付けた課題解決の方法や交流・共有を通して培った豊かな学び合いを他教科でも取り入れ、身に付けた言語の力を駆使し、互いの考えの違いを意識しながら聞いたり、よさを認め合いながら思いを伝え合う機会を大切に授業づくりに取り組み。④指導方法の工夫を図る。
徳	道徳教育・人権教育 集団づくり	①自分を深く見つめたり、思いを語り合ったりしながら、多面的多角的な視点から児童の道徳性や人間性を高める道徳科の授業を行う。②縦割り活動を中心に、多様な集団活動の機会を活用し、自他のよさに気づきながら、思いやりの心や協力する心を育てる。③家庭や地域との連携を図り、様々な人とのかかわりを通して、自分は多くの人に支えられていることに気づき、感謝の気持ちをもつとともに、安定したコミュニケーションのとり方を身に付ける。
体	健康教育・食教育 体づくり	①運動能力・体力の向上を意図して、年間を通じた運動機会として、朝の時間に定期的にスポーツチャレンジの時間を設定する。②自他の命の尊重、健康で安全な生活づくりに寄与する学校保健委員会や保健学習を中心に、生活習慣を見直しながら、改善を図ろうとする意識を高める取組を進める。③年間の行事や特別な教育活動の機会を活用し、適時適所に養護教諭や学校栄養士・学校医の参画による保健学習・食教育に関する授業を行う。④健康に関して専門性のある人材を活用した授業を行う。
公開	地域連携・協働	①教科等の学習活動の中で、主体的に地域の方々や関連施設・企業、地域の自然にかかわる機会を意図的計画的継続的に届け、対話的で深い学びに繋がる単元開発を行う。②様々な視点から地域にかかわったり繋がったりする活動への参画を促し、自分と地域との関係性や繋がりを大切に思う気持ちを育み、家庭と連携しながら地域と進んでかかわろうとする意識や態度を培う。③川上地区の特色ある自然環境保全の取組やエコ活動等、地域の人材活用や自然環境を活かした学びづくりを行う。
いじめへの対応		①いじめ防止基本方針に則り、いじめは絶対に許さないという姿勢で指導にあたる。人権週間の取組にとどまらず、日常的な児童運営委員会の活動との関連を図りながら、児童が自発的にいじめ防止に取り組んでいくように様々な機会をとりえて働きかけていく。②児童支援専任を中心に、いじめを生まない学級風土づくりや集団づくり、授業づくりに繋がるいじめ防止研修を計画的に実施する。③学年・ブロックを単位とし、事業の早期発見と適切な対応、再発防止に向けた情報共有・啓発を迅速に行う。
人材育成・ 組織運営(働き方)		①メンターチームによる研修機会の充実を図り、経験の浅い教員への支援を行うとともに、キャリアステージに則した研究・研修機会の情報提供・参加啓発を随時行う。②他校の重点研究(授業研究会)の機会を活用し、研究交流への参加を促進する。③行事の見直しや時数確保のあり方を検討し、きめ細やかな指導・支援のための体制づくりや教材研究・授業準備の時間確保など、働きやすい職場環境の整備に向けて、組織や諸システムの改善を随時行う。④HP、Web等、学校情報の発信方法を工夫する。
地域学校協働活動		①創立130周年の歴史と伝統に支えられた風土を生かし、学校・家庭・地域の協働参画に基づく「地域とともに歩む学校づくり」を意図して、「学校運営協議会」を設置し、その機能を活かした特色ある教育活動の推進を図る。②学校・地域コーディネーターを中心にして機能している「地域連携協働本部」の積極的な教育活動への参画の下、教育活動の質的な向上を進める。③学校HPやメール配信、学校だより、学校評価アンケート、PTA Web配信等、多様な方法を通して学校情報の発信や情報収集を行う。
児童理解 児童指導		①学校全体で定期的に児童理解に繋がる情報共有を行い、適時適所において適切な児童指導を行う。②学校のまきりや生活のスタンダードに基づく指導とともに、マナーやモラルといった視点からも全教職員の共通理解の下指導にあたり、規範意識の醸成を進める。③教職員が率先して挨拶や声掛けを行い、児童とのコミュニケーション機会の充実とともに、児童の自発的な挨拶や安定したコミュニケーションの成立に向けて、発達段階に応じた具体的な手立てを講じたり、活動に取り組んだりする。
特別支援教育		①外部機関の協力を得ながら、特別な支援が必要な児童への対応についての情報収集をはじめとして、専門的な見地からの支援や指導の在り方を研鑽し、日常指導に活かす。②特別な支援が必要な児童に関する情報交換を随時行い、児童の困り感に寄り添いながら家庭との連携を図りながら支援・指導を行う。③在籍級の枠にとらわれずに、児童の個性・特性を受け止め、互いのよさを認め合い、かかわり合える学びの環境をつくり、活動を計画したりして、種々の教育活動の工夫に取り組む。
安全管理 教育環境整備		①学校施設・設備等の安全点検を、定期的かつ継続的にを行いながら、誰もが安全・安心な校内環境の維持・向上を進める。②保健・衛生面への留意事項を共有し、健康面からの安全・安心な教育環境の維持・向上を進める。③保護者との連携を取りながら児童の安全に対する意識を高め、児童自ら安全に行動する力や危険を回避したり、被害を軽減したりする知恵と行動力を身に付ける機会として、避難訓練や登下校指導・交通安全教育・防犯教育等を意図的計画的に実施する。